



令和6年1月5日

## X線分光撮像衛星 XRISM のファーストライト観測データを公開

この度、工学部の森浩二教授が開発責任者を務めるX線 CCD カメラを搭載したX線分光撮像衛星 XRISM (クリズム) のファーストライト観測データが公開されましたのでお知らせします。

XRISM は我が国で7番目のX線天文衛星であり、2023年9月7日に鹿児島県種子島センターから打ち上げられました。XRISM には軟X線撮像装置 Xtend (エクステンド)が、搭載されています。Xtend は、米国 NASA のゴダード宇宙飛行センターで開発されたX線望遠鏡と、純国産の X 線 CCD カメラの組合せで構成されています。Xtend のX線 CCD カメラは、本学工学部の森浩二教授が開発責任者を務めており、山内誠教授、廿日出勇教授、および、本学の学生も開発に貢献しました。

XRISM は打上げ後の一ヶ月は衛星自身の機能を確認する運用をおこない、その後、観測装置を立ち上げファーストライト観測をおこないました。Xtend は、10月14日から10月24日にかけて、約7億7000万光年の距離にある銀河団 Abell 2319 (エイベル 2319) の観測を行い X 線画像取得に成功しています(図1)。森教授らが開発したX線 CCD カメラは広視野が特徴で、過去の衛星では複数回の観測でようやくカバーしていた領域を Xtend では一回の観測でカバーできます。

詳細は、以下の JAXA ホームページをご覧ください。

[https://www.jaxa.jp/press/2024/01/20240105-1\\_j.html](https://www.jaxa.jp/press/2024/01/20240105-1_j.html)

X線で宇宙を観測することで、可視光では見ることのできない宇宙の姿を捉えることができます。メディア関係者の皆様におかれましては、今後のXRISMの活躍に注視していただくとともに、今回のファーストライト観測データ公開の取材について検討いただければ幸いです。

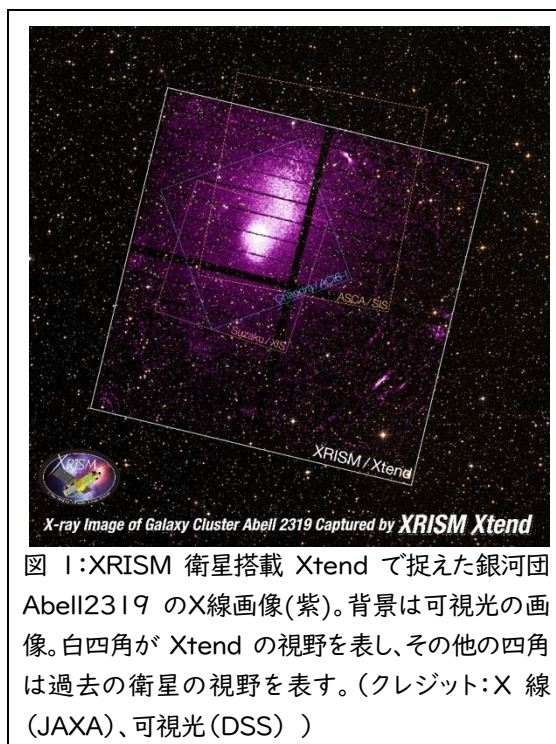


図1:XRISM 衛星搭載 Xtend で捉えた銀河団 Abell2319 のX線画像(紫)。背景は可視光の画像。白四角が Xtend の視野を表し、その他の四角は過去の衛星の視野を表す。(クレジット:X 線(JAXA)、可視光(DSS) )

### 【発信元】

宮崎大学企画総務部総務広報課(後田)

TEL : 0985-58-7114

e-mail : kokuhou@of.miyazaki-u.ac.jp

### 【取材申し込み先・問合せ先】

工学部応用物理工学プログラム 森浩二

TEL : 0985-58-7371

e-mail : mori@astro.miyazaki-u.ac.jp